

●第16回講座「子供に夢や希望をもたせるキャリア教育」

平成28年12月10日（土）に第16回講座が行われました。今回は「子供に夢や希望をもたせるキャリア教育」をテーマに、小学校コースと特別支援学校コースに分かれて講義が行われました。

小学校コースの講義では、教職員研修センター研修部教育開発課 高瀬智子統括指導主事から小学校におけるキャリア教育について話がありました。また、講義の後半では、キャリア教育の実践例を考える演習が行われました。塾生からは、小学校2学年の図画工作で自分の好きなものを様々な素材を使って表現することを通して、自らを見つめて表現する力を育成する実践例の紹介がありました。最後に、高瀬統括指導主事から「今後の実践において、キャリア教育の視点から授業改善を行い、子供たちが将来の夢や希望をもって生き生きと学び、成長できるよう自身の指導力を高めていくこと。」の大切さについて話があり、塾生は日々の授業改善を通じて、キャリア教育を行うことの重要性を実感しました。



—小学校コースの
講義の様子—

特別支援学校コースの講義では、教職員研修センター研修部教育開発課 茂木里美指導主事から特別支援学校におけるキャリア教育について話がありました。児童・生徒の障害の程度や発達段階を踏まえて、保護者や関係機関と連携したキャリア教育が求められること、将来の生活の基盤となる基本的な生活習慣の確立やコミュニケーション能力の向上に関する指導に重点を置くことについて説明がありました。



—修了生を交えた
班別協議の様子—

講義終了後、第12期修了生を交えて、キャリア教育に関する班別協議が行われました。修了生からは、縦割り班での交流活動や学級会、係活動等を通じたキャリア教育の実際について紹介があり、塾生はキャリア教育への理解を深めました。班別協議の後半では、修了生が教師として経験していることを踏まえて、これから教師になる塾生に助言をしました。修了生からは、初めの1週間を大切に過ごすこと、管理職や周りの先生との連携が大事であること、ユーモアを大切にすること等、様々な話があり、塾生からも多くの質問がでました。とても生き生きとした表情で、自信をもって力強く教師として経験したことを話す修了生の姿が印象的でした。

【塾生の感想より】

- ・キャリア教育は職業観だけではなく、「生き方」を学ぶ教育であることを理解した。教育活動全体を通して、幅広い視点から子供たちの自分らしい生き方について、学習が深まるよう指導していくことの大切さを学ぶことができた。
- ・子供のできることを見つけて、子供が自分でできるように手立てや支援を考えていく。この視点をもって授業等に取り組んでいきたい。
- ・4月からどのように学級づくりをしていくか、今のうちから考えていくことの大切さを学んだ。今からできることをしっかりと考えて、4月に向けて準備をしようと思った。

●塾生同士の授業観察

東京教師養成塾では、実践的な学習指導力の更なる充実を図るため、班ごとに塾生同士の授業観察を行いました。4月から班別協議や公開ゼミナールに向けた指導案検討等で切磋琢磨してきた塾生が互いの授業を参観するとともに、自らの学習指導に生かしていきたいことや改善すべきこと等を協議することにより、特別教育実習での授業改善への意欲をさらに高めていました。また、授業者の塾生は、日頃から御指導いただいている養成塾教授や養成指定校の管理職、指導担当の先生とは違った視点からの意見を他の塾生から聞くことにより、学習指導についてより主体的に考えるようになりました。

【塾生の報告書より】

- ・授業者が教材や目の前の子供と真剣に向き合っていた。一つ一つきめ細かく丁寧に学習指導案を検討し、授業実践を行うことの大切さを学んだ。
- ・子供にとって分かりやすい授業にするためには、子供の言葉を生かしながら授業を進めていくとともに、抑揚のある話し方が大切であることを実感した。



—協議の様子—

●特別支援学校の授業参観

東京教師養成塾では、特別支援学校の教育活動や児童・生徒の発達段階に応じた指導等への理解を深めるとともに、学校教育に対する視野を広めることを目的に特別支援学校の授業参観を行いました。今年度は、都立特別支援学校13校に御協力をいただき、授業の参観や施設の見学、管理職や特別支援教育コーディネーターの先生による講話などにより、塾生は特別支援教育への理解を深めることができました。

＜特別支援学校の参観協力校＞

都立葛飾盲学校、都立八王子盲学校、都立久我山青光学園、都立大塚ろう学校、都立立川ろう学校、都立葛飾ろう学校、都立光明特別支援学校、都立永福学園、都立墨東特別支援学校、都立府中けやきの森学園、都立志村学園、都立鹿本学園、都立武蔵台学園



—施設の見学—
(都立武蔵台学園)



—視覚障害の疑似体験—
(都立葛飾盲学校)

【塾生の報告書より】

- ・校長先生の話で、「教師は常日頃から幅広い専門性が求められている。」という言葉が印象に残った。専門性を高めるために、常に学び続けていきたい。
- ・講話で個別指導計画の作成の一例を学んだ。児童・生徒の様子を丁寧に記録し、自分なりに児童・生徒の課題や得意なことを把握し、学年の先生方と相談しながら授業を行いたい。
- ・掲示物や教室設備が分かりやすく、次の行動に移りやすい動線になっていた。児童・生徒が目的をもって活動しやすい環境づくりを心掛けていきたい。

【連載シリーズ コラム⑭】

◆ 授業力向上に向けた取り組み ◆

東京教師養成塾教授 坊野 美代子

学校教育の中心が授業にあることを考えれば、東京都の教員として、常に授業力向上に向けた取組が求められることは言うまでもありません。より良い授業づくりができるように、日々研鑽を重ねることが大切です。「分かった」「できた」という達成感が得られる授業、意欲的・主体的に学ぼうとする姿が見られる授業、このような授業が、子供の力を引き出す「良い授業」と言えるでしょう。

「良い授業」を作るために、留意すべきポイントを以下に整理してみます。

◇ 指導のねらいがはっきりしていること

授業を行う上で、「何のために教えるのか」「どんな力をつけたいのか」を明確にしておくことが大切です。「付けたい力は何か」という指導目標を設定し、目標を達成させるためにはどのような教材を使って、どのような指導内容や方法で指導していくのかを計画していきます。

◇ 学習内容や活動の見通しをもたせること

子供一人一人の課題意識を掘り起こし、多様な考えを生み出すために、学習の流れが明確で分かりやすいことが大切です。また、学習の見通しがもてることで、安定して取り組めるという効果もあります。

◇ 子供への指導・支援が適切であること

小学校の各教科等の授業では、一人一人の子供の理解度や活動の進度に差が生まれるものです。また、特別支援学校では実態に大きな開きがあることが想定されます。どちらの場合も、「分かった」「できた」という達成感が得られるようにするために、個々の理解度や学習進度を考慮した指導・支援が必要です。

◇ 子供の学ぶ意欲を高めていること

各授業では、子供に知識・技能を身に付けさせるとともに、自ら学ぶ力を育てることが大切です。子供の様々な考えや意見を引き出す、話し合いを活用する、子供の興味・関心が高い教材や題材を活用するなどにより、学ぶ意欲を高めることができます。

◇ 学習評価が適切であること

授業改善のPDCAサイクルを確立するためにも、適切な学習評価が必要です。子供が学習内容を理解する過程はどうだったのか、どの程度知識を得られたのか、活用できるところまで身に付いているか、などを評価し、その後の指導に役立てていきます。

以上のポイント以外にも、「良い授業」を作るために留意すべき要素は様々に考えられると思いますが、ここに整理した留意点を参考にして、子供一人一人に応じたきめ細かい指導を心がけ、授業力向上に取り組んでもらいたいと思います。